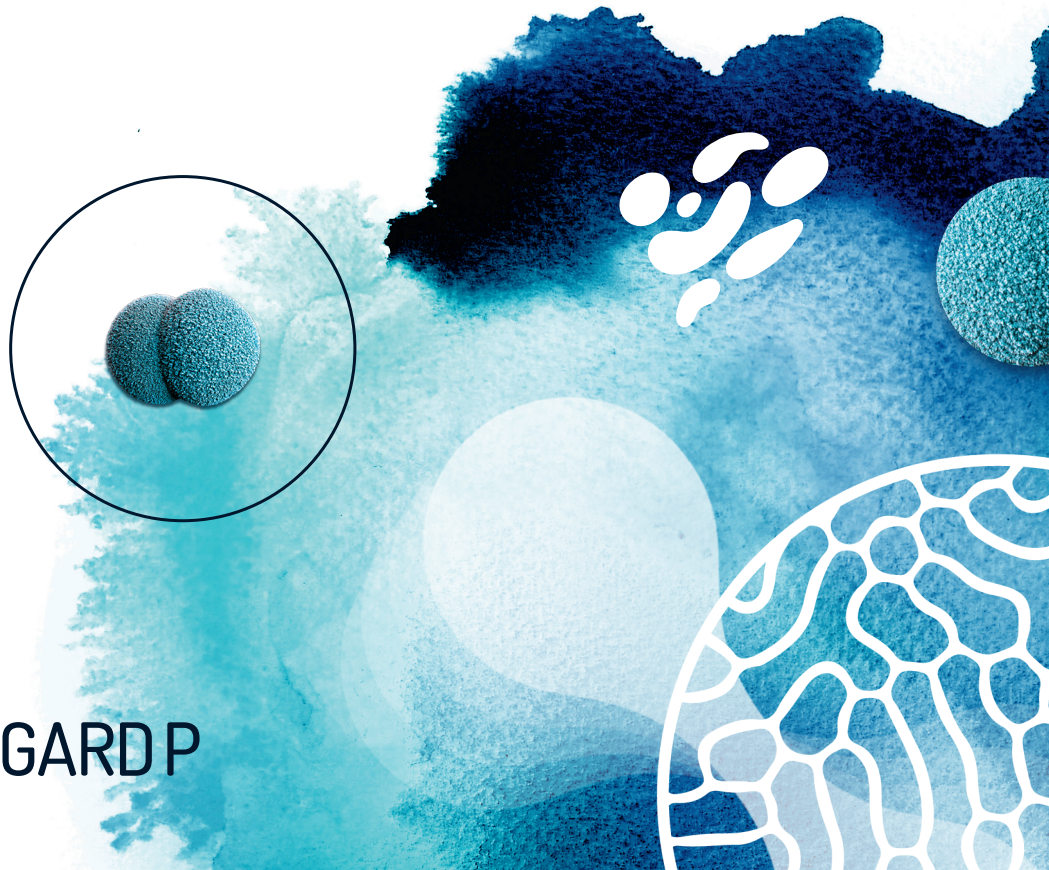
力を集結し
薬剤耐性細菌に
立ち向かう

グローバル抗菌薬
研究開発
パートナーシップ



GARD P

GARDPのパンフレット

目次

目標 4

抗菌薬耐性による危機との闘い

パートナー 7

GARDPはあなたの助けを必要としています

危機 8

抗菌薬耐性による危機が生じた原因

耐性 10

薬剤耐性菌感染症の増加

脅威 11

持続可能な開発目標（SDGs）に対する脅威

アクション 12

政府に働きかけて行動を促す

パートナーシップ 18

強力なパートナーシップの構築

優先事項 19

GARDPの主な優先事項

インパクト 20

私たちがもたらす影響

支援 21

パートナーシップの力

連絡先 23

詳しい情報

目標

抗菌薬耐性による危機との闘い

抗菌薬の発見は私たちの世界を変容させました。これらの強力な医薬品が登場したおかげで、かつては死ぬこともあった肺炎や敗血症などの細菌による感染症が今では治療可能になり、手術やがん化学療法などの救命治療を安全に実施することができます。1世紀の間に救われた命は数百万に上り、私たちの健康状態（ウェルビーイング）は大幅に改善されました。

私たちは、抗菌薬のない生活は考えられないほど抗菌薬に依存するようになりました。その結果、急速に現実になっていることがあります－抗菌薬があまりに際限無く、また不適切に使用されたため、その多くが細菌に打ち勝つ能力を失いつつあります。毎年、世界中で70万人が薬剤耐性菌感染症によって死亡しています。緊急に行動を起こさなければ、この人数は指数関数的に増加することになります。

毎年、世界中で70万人が
薬剤耐性菌感染症によって死亡しています。

抗菌薬耐性は、一つの国、企業、または組織が単独で戦うことのできない世界的な問題です。耐性菌は、国や地域をまたいで容易に広がることができます。耐性菌は年齢を問わず誰にでも感染する可能性がありますが、最も脆弱な集団である女性、子供、免疫力が低下している人、および高齢者が、この脅威の最初の犠牲となります。

この増大する危機に対応するため、**GARDP**は**5 BY 25**という目標を設定しました。これは、世界の健康と経済安全保障に最大の脅威をもたらす薬剤耐性菌感染症に取り組むために、2025年までに5種類の新しい治療を開発しようとするものです。この目標は野心的ですが、今すぐ私たちが団結して緊急に行動を起こせば達成することが可能です。

パートナー

GARDPはあなたの助けを必要としています

グローバル抗菌薬研究開発パートナーシップ（GARDP）は、新しい治療薬を開発していくことをパートナーに働きかけます。私たちは、政府、民間セクター、学術機関、および市民社会と協力して、抗菌薬耐性に対する革新的な解決策の開発を推進しています。

4年間で、**GARDP**は20か国から50を超えるパートナーシップの締結に成功し、知識と専門性の強固な基盤を構築し、新しい治療薬を届けるための研究プラットフォームとプログラムを作り出しました。また、後期臨床開発プロジェクトによるポートフォリオも構築しました。

この重要な取り組みの継続と**5 BY 25**の達成には資金が必要不可欠です。そのため、私たちは5億ユーロという目標を設け、その達成の支援を、政府、慈善団体、民間・公的機関に呼びかけています。

あなたの支援は、今日の私たち、そして将来の世代の健康を守るため、緊急に必要な命を救う治療を開発するための資金となります。

GARDPが開発を進めている5種類の新しい治療は、健康に対する最大の脅威であり、新しい抗菌薬の開発が急務であると**WHO**が特定した薬剤耐性菌に焦点を合わせています。私たちは、性感染症、新生児敗血症、および入院中の成人・小児の感染症に対する治療を開発しています。

危機

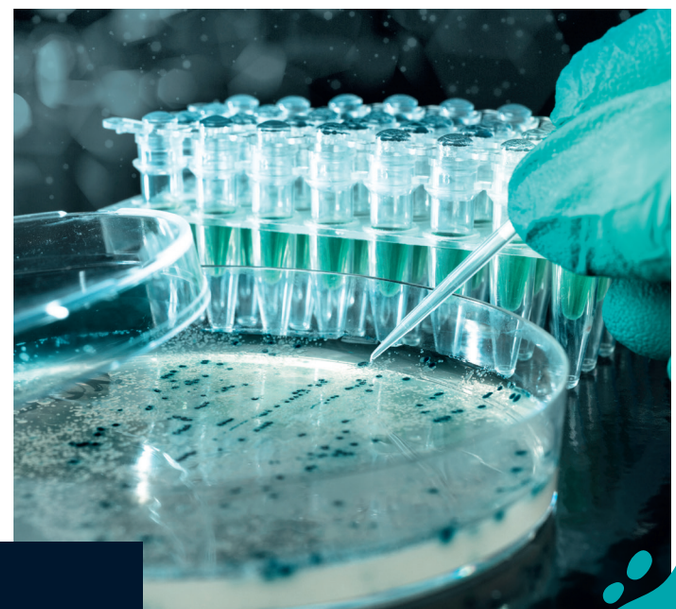
抗菌薬耐性による危機が生じた原因

細菌は薬剤に反応して自然に変化することにより、薬剤を無効にする能力を発達させることがあります。残念ながら、このプロセスは抗菌薬の過剰使用と誤用によって加速しており、このスピードに医薬品開発が追いついていません。

細菌や真菌などの病原体が、自らを殺すように設計された薬剤に打ち勝つ力を発達させると、抗菌薬耐性が生じます

新しい抗菌薬は、過去25年間に極めて少数しか開発されていません

今日使用されているすべての抗菌薬のうち半分は、1950年代から1970年代の間に見い出されたものです。それ以降、創薬と医薬品開発は複雑さを増し、より時間と費用がかかるようになりました。通常、新しく承認された抗菌薬は、耐性の出現と広がりを遅らせるために治療期間が短く制限されています。そのため投資利益率を上げることができず、民間企業の多くがこの分野を去ってしまいました。新しい抗菌薬が実用化されたとしても、それらが優先順位の高い薬剤耐性菌に効くことはまれであり、またごく少数の国でしか使用登録されていないのが現状です。



2000年から
2015年の間に、
世界の抗菌薬消費量は

65%

増加しました

*英国では、処方された抗菌薬の**5分の1**は本来必要の無いものでした*
*米国では、この数は**3分の1**にのぼります*

耐性

薬剤耐性菌感染症の増加

かつて治療可能だった感染症による死亡が、世界中で驚くほど増加しています。世界保健機関（WHO）は、新しい治療薬が緊急に必要な細菌のリストを公開しています。

WHOがまとめた新しい抗菌薬の必要性が極めて高い病原体のリストには、院内感染症を引き起こす細菌が含まれています。高所得国では患者の最大10%が、肺炎や、骨、血液、関節、尿路などの感染症を含む、これらの感染症に罹患しています。欧州では、年間40万人を超える人々が、病院に関連する薬剤耐性菌感染症に罹患しています。その数は、医療環境に大きな制約のある低・中所得国ではさらに大きくなります。

薬剤耐性淋菌の感染率も世界的に増加しています。淋病は、治療せずに放置すると、HIVやその他の性感染症（STI）の感染リスクを高めるだけでなく、性と生殖における深刻な影響を及ぼすことがあります。STIは結果として、とりわけ女性や社会から取り残された脆弱な集団に影響を与えています。

子どもは、抗菌薬耐性に対する脆弱性が最も高いグループの1つです。新生児における細菌感染の最大40%が標準治療に耐性があり、毎年214,000人を超える新生児が薬剤耐性菌感染症で死亡しています。これらの死亡のほとんどは低所得国で起こっています。悲しいことに、乳児向けの新しい治療薬開発の取り組みはほとんどなく、小児を対象とした臨床試験はまれです。

薬剤耐性菌感染症のリスクが最も高いのは最も脆弱な人々ですが、誰にでも罹患する可能性があります

2015年、世界で
214,000
人の乳児が薬剤耐性菌感染症によって死亡しました

2015年、EUで
670,000
人が薬剤耐性菌感染症に罹患し、33,000人が死亡しました

2018年、米国で
>150,000
例を超える死亡の原因が抗菌薬耐性であると推定されました

脅威

持続可能な開発目標（SDGs）に対する脅威

持続可能な開発目標（SDGs）は、より健康で繁栄した世界に対する私たちの願いと最大の希望を体現するものです。持続可能な未来は、住んでいる場所にかかわらず、一人ひとりの健康な状態（ウェルビーイング）を維持し、促進することにかかっています。そしてそれは、すべての人びとの健康な生活の確保を目指した具体的な目標が含まれるSDGsのDNAなのです。

SDG3で知られる、健康に関する目標で設定されたターゲットには、新生児と小児の予防可能な死亡をなくす、性と生殖に関する健康の向上や、有効で入手可能な価格の必須医薬品へのアクセスを確保することが含まれます。これらのターゲットを達成するには、有効な治療薬を、住んでいる場所にかかわらず、必要とするすべての人に届けるための緊急の取り組みが必要です。

国連総会では、協力して薬剤耐性と戦うことの重要性と、これまでにないレベルでの世界的な協力・調整が必要であることが確認されています。

アクション

政府に働きかけて行動を促す

*「**WHO**は**GARDP**の共同創設者の1つであり、GARDPが薬剤耐性菌感染症に対処する革新的治療薬のパイプラインを構築し、すべての人がこれらの治療薬を利用できるよう支援しています。私は、2025年までに5種類の新しい治療を開発するという目標達成のために**GARDP**を支援することを、政府、財団、その他の資金支援者に要請します。」*

DR. TEDROS ADHANOM GHEBREYESUS
（テドロス・アダノム・ゲブレェサス博士）
世界保健機関（WHO）事務局長

抗菌薬耐性は、世界の繁栄と安全に差し迫った脅威を及ぼす複雑な問題です。増大する危機に取り組むには、国内および国際レベルで統一された政治的行動が必要です。持続的な行動がなければ、薬剤耐性は気候変動と同等か、あるいはそれ以上の壊滅的打撃を世界経済に与えるでしょう。

2015

グローバル・アクション・プラン
WHOは薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プランを発表し、国家行動計画の策定を各国政府に要請

2016

第1回総会
国連総会で薬剤耐性に関する初のハイレベル会合を開催し、行動に向けた政治宣言を可決

最終報告書
薬剤耐性菌感染症に対するグローバルな取り組み：最終報告と提言
Jim O'Neill（ジム・オニール）が議長を務めた報告書の公開

2017

G20アジェンダ
薬剤耐性が、ドイツが議長国を務めたG20保健大臣会合で優先事項に挙げられる
GARDPは2017年以降すべての保健大臣会合コミュニケで名前が挙げられている

2018

167か国
100か国が薬剤耐性に関する国家行動計画を策定し、さらに67か国が計画中

2019

待っている時間はない
薬剤耐性に関する国際機関の調整グループ（IACG）が報告書を発表―
待っている時間はない：薬剤耐性感染症から未来を守る―を発表

WHA決議
世界保健総会で薬剤耐性に関する決議を採択

2020

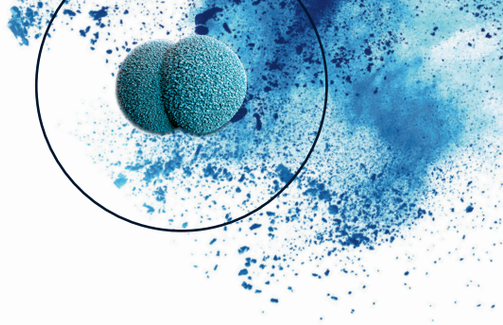
資金の必要性
ランセット誌感染症委員会報告書が、これまでの取り組みは整合性に欠けており、世界的に合意された目標に向けた進捗管理のための持続的な資金が早急に必要と結論

COVID-19からの教訓

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック（世界的大流行）は、どのようにウイルスが医療システムや経済を混乱させ、いかに脆弱な集団を脅かすかを示しました。パンデミックに対する備えが極めて重要であること、特に新しい診断法、治療薬、およびワクチンの研究開発への投資の必要性も浮き彫りにしました。

COVID-19と薬剤耐性菌感染症との関連は、多くの人が思うよりも厄介です。抗菌薬は、ウイルスに対して有効ではありません。しかしその一方で、新型コロナウイルス感染症患者に対し、細菌性肺炎や血流感染（敗血症など）を含む二次細菌感染症の予防または治療を目的として使用されています。しかしながら、これらの感染症の多くが、次第に既存の治療薬に対する耐性を持つようになっています。

COVID-19と同様に、抗菌薬耐性は、集団内を密かに移動し、国境を越えて広がる健康安全保障上の脅威です。一つの国、企業、または組織が単独で薬剤耐性と戦うことはできません。それを可能にするのはパートナーシップです。薬剤耐性菌感染症が次の世界的な公衆衛生上の緊急事態とならないよう、私たちは今直ちに行動しなければなりません。私たちはあなたの支援を頼りにしています。



2020年から2050年までの薬剤耐性による経済的打撃

世界銀行は、薬剤耐性が
2008年の金融危機
に匹敵するダメージを世界経済に及ぼすおそれがあると警告

極度の貧困に陥る人が
28.3万人増加

世界の医療費は
1年あたり最大1兆ドル増加

抗菌薬の適正使用と アクセスへの対応

薬剤耐性菌感染症に対する取り組みは、細菌感染症の新しい治療薬への責任ある持続可能なアクセスを確保し、適正使用の問題に対処しなければなりません。

責任ある持続可能なアクセスとは、治療薬の品質が要求される水準を満たし、患者と医療システムにとって入手可能な価格で、必要な時に遅滞なく供給されることを指します。

薬剤耐性の出現と広がりを制限するため、抗菌薬の責任ある使用を確実にし、適正使用への支援も実施しなくてはなりません。

GARDPは、抗菌薬を必要とするすべての人が、住んでいる場所にかかわらず、有効、適切で、入手可能な価格の治療を受けられる世界に向けて活動しています。

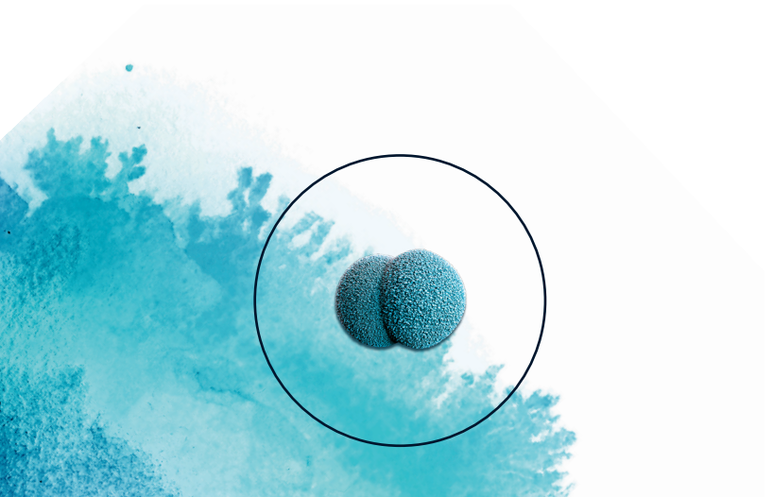
パートナーシップ

強力な パートナーシップの構築

GARDPは、抗菌薬耐性の課題に対する革新的解決策の促進を目的として設立されました。私たちは、政府、民間セクター、学術機関、市民社会、および薬剤耐性菌感染症の影響を受けた人々からの経験と知見を活かしていきます。

私たちは、後期臨床開発に焦点を合わせ、新しい治療薬が開発された際に、必要とする人々が確実にその治療薬を利用できるよう尽力します。

私たちは、政府、地域ネットワーク、およびWHOによる責任ある持続可能なアクセスを担保するためのガイドラインおよび適正使用方針の策定を支援します。



優先事項

GARDPの 主な優先事項

小児用**抗菌薬**

新生児敗血症を含む小児の薬剤耐性菌感染症の治療を目的とした新規抗菌薬の開発、既存の抗菌薬の改良および最適化のための開発を加速することに尽力しています。

重症細菌**感染症**

有効性の期待できる抗菌薬が殆どない、または全くない入院患者の細菌感染症に対処するための新しい治療薬の開発を加速させています。

性**感染症**

淋病を含む、難治性および薬剤耐性性感染症の新しい治療薬の開発を加速させています。

創薬および**探索**

薬剤耐性菌感染症の治療薬に繋がり得る化合物を特定するための化合物ライブラリーのスクリーニング、前臨床および臨床開発を行う新規化合物の特定、およびパートナーとの協力による、REVIVEプログラムを含む抗菌薬研究開発における幅広い教育、知識共有を行っています。

インパクト

私たちがもたらす影響

GARDPは、WHOと顧みられない病気の新薬開発イニシアティブ（DND*i*）によって2016年に設立されました。それ以来、私たちは：

- 淋病に対するファースト・イン・クラスの治療薬を開発するため、Entasis Therapeutics社と提携しました。現在、この治療薬に対し国際共同第3相試験が実施されています。
- 既存の抗菌薬（ホスホマイシン）を、新生児敗血症を含む薬剤耐性菌感染症の治療のために小児や乳児に使用する際の安全性評価を完了しました。
- これまでの予防法と治療法を変え、敗血症が乳児の主要な死因でなくなるよう、新生児敗血症を対象とした最大規模の国際共同試験に、3000人を超える乳児を登録しました。
- 小児用抗菌薬開発プラットフォームを作り、乳児と小児の重篤感染症に対する候補薬を選定しました。
- 入院している成人の複雑性尿路感染症を含む重篤な細菌感染症に対する薬剤候補の共同開発を行うため、Venatorx社と提携しました。
- 抗菌薬研究開発に関するオンライン知識共有プラットフォームであるREVIVEを立ち上げました。REVIVEによって、抗菌薬分野の経験の有無にかかわらず、すべての研究者が、著名な専門家の経験と知識を得ることができます。これまでに、世界中から2,400人以上が、この分野の専門家による19を超えるオンラインセミナーに参加しました。
- 抗菌薬研究開発の促進を目的とした私たちの創薬・探索プログラムの一環として、100を超える新規および「再生された」化合物を評価しました。
- 後期臨床開発ポートフォリオを構築しました。
- 40人以上の専門性の高いスタッフを有する非営利財団として完全な稼働を開始しました（2019）。

支援

パートナーシップの力

GARDPは、世界の健康と経済安全保障に最大の脅威をもたらす薬剤耐性菌感染症への対策として、2025年までに5種類の新しい治療を提供するために、世界に対して支援を呼びかけています。私たちは、これらの治療を開発し、責任ある使用と持続可能なアクセスを担保するために、5億ユーロの支援を必要としています。

あなたの支援によって、私たちは命を救う新しい治療を開発することができます。それは、必要とするすべての人が抗菌薬を入手でき、可能な限り長期間にわたって治療が有効であることを保証する、極めて重要な活動の資金となります。

今すぐ一丸となり、迅速に行動することによって、私たちは2025年までに5種類の治療を届け、現在の私たちの健康と、将来の世代の健康を守ることができます。

連絡先

詳しい情報はこちら

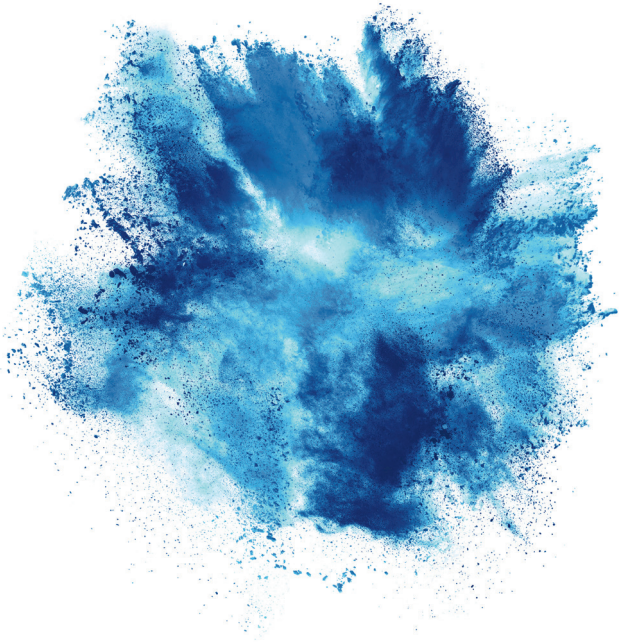
グローバル抗菌薬研究開発
パートナーシップ
（GARDP）

15 chemin Camille-Vidart
1202 Geneva – Switzerland

+41 22 555 19 90

contact@gardp.org

クレジット
写真: ©Abraham Ali（p.16-17）および ©Nicholas Peart（p.22-23）
デザイン: ©Enigma



GARD P